

## 寺村秀夫と現代日本語文法研究

益岡隆志

### 1. はじめに

寺村秀夫の現代日本語文法研究については、既に益岡（1993, 2003）で概観したところであるが、今回再度、主著『日本語のシンタクスと意味』を中心に展望を試みる。それを通して、現代日本語文法研究（過去60年間、特にその前半の30年間）の流れの一端を示したい（cf. 仁田（2012））。

発表の構成としては、寺村が登場した時代背景に触れ（第2節）、それをもとに、寺村がめざしたものは何であったかという点と、『日本語のシンタクスと意味』の趣旨はいかなるものであったかという点を話題にする（第3節と第4節）。最後に、『日本語のシンタクスと意味』に関わる課題事例を取り上げる（第5節）。

### 2. 時代背景

寺村が登場した時代背景—1960年代

現代日本語文法研究に関わる背景

◇現代言語学の潮流

アメリカ言語学：構造言語学（記述言語学）から生成文法へ（cf. 寺村（1988））

寺村の渡米経験：1961年～1963年、1968年～1970年

Bloch (Bloch (1946)), Chomsky (Chomsky (1965)), Fillmore (Fillmore (1968))

cf. 服部（1960）から Kuroda (1965)・Kuno (1973) へ

◇日本語教育の進展（cf. 野田（2007））

寺村の大阪外国語大学留学生別科への奉職（1965年）

教科書や文法ワークブックの作成

これら2つの背景が寺村の日本語文法研究の方向性を定めた

同時代の研究者

国内の現代日本語文法研究：南（1974）、鈴木（1972）、渡辺（1971）など

現代言語学による日本語文法研究：Kuroda（1965）、Kuno（1973）、柴谷（1978）など

### 3. 寺村がめざしたもの

寺村が切り開いた研究分野：現代日本語文法研究

Bloch と三上（三上（1953））の影響

「世界のいろいろな言語を視野に入れつつ、つまりひいては人間の言語に共通する普遍的なものを志向しつつ、一方でどこまでも日本語自体の中に生きている理屈をつかみ出さなければならないということを私がおそわったのは、バーナード・ブロックと、三上章という二人の言語学者からである。」

(『日本語のシンタクスと意味 I』「まえがき」(p.2))

対照研究の観点：\*日本語教育においては学習者の母語に目を向ける必要がある

「観察の中心は日本語であるが、いろいろなきまりの性質を広い立場から考えるという意味で、時として英語その他の外国語に観察の目をひろげることもしてみたい。人間の言語に普遍的なものに思いをめぐらすには現在の筆者の知識はあまりにも小さいが、問題意識としては、どこまでが日本語に特有の現象なのか、どの点はほかの言語にも共通して見られることなのか、という問いも頭に置いておきたい。」

(『日本語のシンタクスと意味 I』「序章」(p.15))

大阪外国語大学留学生別科編 (1979), 寺村編 (1982)

日中対照：寺村 (1976) cf. 大河内編 (1992)

#### 4. 『日本語のシンタクスと意味』に見る寺村文法

##### 4.1 その目標

「本書で考えようとするのは、このように、日本語を身につけた者—いわゆるネイティブ・スピーカー—が誰でも‘知っている’こと、つまりいろいろな文が、一定のきまりによって結びついている、そのきまりはどういうものであるか、ということと、そのようなきまりによって部分が結びついたときの、その結びつきがもつ意味はどういうものかということである。」(「序章」 pp. 14-15)

母語話者の言語知識としての「文の文法」(文構造と意味の関係)

「実用文法」：言語教育(日本語教育)につながる包括的記述 cf. Martin (1975)

Bloch (記述言語学), 三上 (「現代語の実用的なシンタクス」(三上 (1953) の後記))

意味への着目：\*日本語教育においては意味の問題が避けられない

実用文法を超えて

◇体系的な文法記述モデルの構築：文文法の包括的な体系 (cf. 寺村 (1989a))

単文(コトからムードへ)から複文へ

◇文構造と意味の関係の明示化

構成的な意味：「関係の意味」、述語部分での「描叙類型的意味」

\*南 (1974, 1993) の研究

文の文法：単文と複文

文構造モデルの構築：文の階層構造（意味との対応）

寺村の文構造の把握にも南の階層構造モデルに類似する面が認められる

#### 4.2 寺村以降の現代日本語文法研究の展開—1990年代以降

##### ◇文の文法の展開

体系的記述の追究と分析の深化

##### ◇寺村文法における関連分野の展開

寺村文法の関連分野

文の文法を究明するなかで語の文法や談話の文法（語用論）にも目配りする

\*日本語教育においては語彙の問題や談話の問題も視野に入れる必要がある

[事例]

語の研究（形態論・レキシコン研究） cf. 影山（1993,1996）, Jacobsen（1992）

形態論：活用・語形成（複合動詞など）の研究

レキシコン研究：動詞・名詞などの語彙的類型と文法の関わりの研究

談話・語用論の研究

名詞句の指示（cf. 寺村（1989b））：指示詞の研究

文の文法と談話・語用論の接点に関わるモデル構築

「談話管理理論」（cf. 田窪（2010））, 「三層モデル」（cf. 廣瀬他編（2020））

##### ◇対照研究

多言語対照：日本語を軸とした共同研究・プロジェクト研究

[事例] 取り立て（野田編（2019））, 名詞修飾（パルデシ・堀江編（2020））

#### 5. 『日本語のシンタクスと意味』に関わる課題事例

##### ◇構文を対象とする構造と意味の関係の分析

第2章における述語と補語からなる構文（cf. 益岡（準備中 a））

##### ◇体系性の可視化

第3章における態（ヴォイス）の体系（cf. 益岡（準備中 b））

#### 引用文献

影山太郎（1993）『文法と語形成』ひつじ書房.

影山太郎（1996）『動詞意味論』くろしお出版.

柴谷方良（1978）『日本語の分析』大修館書店.

鈴木重幸（1972）『日本語文法・形態論』麦書房.

田窪行則（2010）『日本語の構造』くろしお出版.

- 寺村秀夫 (1976) 「対照研究と「態 (ヴォイス)」」 日本語と中国語対照研究会編『日本語と中国語の対照研究』1.
- 寺村秀夫 (1982・1984・1991) 『日本語のシンタクスと意味 I・II・III』くろしお出版.
- 寺村秀夫 (1988) 「欧米の言語理論」 金田一春彦他編『日本語百科大事典』大修館書店.
- 寺村秀夫 (1989a) 「現代日本語: 文法」 亀井孝他編『言語学大辞典第 2 巻: 世界言語編 (中)』三省堂.
- 寺村秀夫 (1989b) 「意味研究メモーその 1—」『阪大日本語研究』1.
- 寺村秀夫編 (1982) 『講座日本語学』第 10 巻～第 12 巻, 明治書院.
- 仁田義雄 (2012) 「寺村秀夫の日本語文法研究とその生涯」『日本語文法研究の歩みに導かれ』くろしお出版.
- 野田尚史 (2007) 「寺村秀夫『日本語のシンタクスと意味』」『日本語学』26 巻 5 号.
- 野田尚史編 (2019) 『日本語と世界の言語のとりたて表現』くろしお出版.
- 服部四郎 (1960) 『言語学の方法』岩波書店.
- 廣瀬幸生他編 (2022) 『比較・対照言語研究の新たな展開』開拓社.
- 益岡隆志 (1993) 『『寺村秀夫論文集 II—言語学・日本語教育編—』解説: 総説・言語学編』くろしお出版.
- 益岡隆志 (2003) 『三上文法から寺村文法へ』くろしお出版.
- 益岡隆志 (準備中 a) 「日本語の存在関係構文と主題・主語論」
- 益岡隆志 (準備中 b) 「ヴォイスで見る日本語—英語との対照—」
- 三上章 (1953) 『現代語法序説』刀江書院.
- 南不二男 (1974) 『日本語の構造』大修館書店.
- 南不二男 (1993) 『現代日本語文法の輪郭』大修館書店.
- 大河内康憲編 (1992) 『日本語と中国語の対照研究論文集 (上)・(下)』くろしお出版.
- 大阪外国語大学留学生別科編 (1979) 『格表現の対照—日本語教育のために—』
- プラシヤント・パルデシ&堀江薫編 (2020) 『日本語と世界の言語の名詞修飾表現』ひつじ書房.
- 渡辺実 (1971) 『国語構文論』塙書房.
- Bloch, Bernard (1946) “Studies in colloquial Japanese, Part II, Syntax.” *Language* 22.
- Chomsky, Noam (1965) *Aspects of the Theory of Syntax*. Cambridge, Mass.: MIT Press.
- Fillmore, Charles J. (1968) “The case for case.” In Emmon Bach and Robert T. Harms (eds.) *Universals in Linguistic Theory*. New York: Holt, Rinehart and Winston.
- Jacobsen, Wesley M. (1992) *The Transitive Structure of Events in Japanese*. Kurosio Publishers.
- Kuno, Susumu (1973) *The Structure of the Japanese Language*. Cambridge, Mass.: MIT Press.
- Kuroda, Shige-Yuki (1965) *Generative Grammatical Studies in the Japanese Language*. Doctoral dissertation, MIT.
- Martin, Samuel E. (1975) *A Reference Grammar of Japanese*. New Haven: Yale University Press.